

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

7
No.773

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる明日へつながる²⁶
認知症の人も暮らしやすい地域づくり

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
人が集まるところに、介護・福祉の相談窓口を
～特別養護老人ホームかるべの郷さざんか～

P8 地域を駆ける! ワーカー物語
「地域に何かあれば頼っていただけるワーカーになりたい!」
川西市社会福祉協議会
森 真美さん

P9 シニア世代のいきいきアクティブライフ
肩肘張らず、求められることに
丁寧に対応しながら活動を!

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

丹波市



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる⁽²⁶⁾

認知症の人も暮らしやすい 地域づくり



「両親や身近な人、あるいは自分が認知症になったら、どうすればいいのだろう…」近年、認知症の高齢者が増え続けている中で、多くの方がそのような思いを抱いたことがあるのではないだろうか。認知症の人とその家族に対する支援が、大きな社会的課題となっている。今回の特集では、地域で暮らす認知症の人とその家族の暮らしを支えるための、住民が主体となった活動を紹介するとともに、認知症になっても安心して暮らすことのできる地域づくりのポイントを探る。

国家戦略となった 認知症対策

認知症とは、さまざまな原因で脳の機能が損なわれることにより、記憶判断力が低下し、社会生活や対人関係に支障が出る状態を指す(図表1参照)。

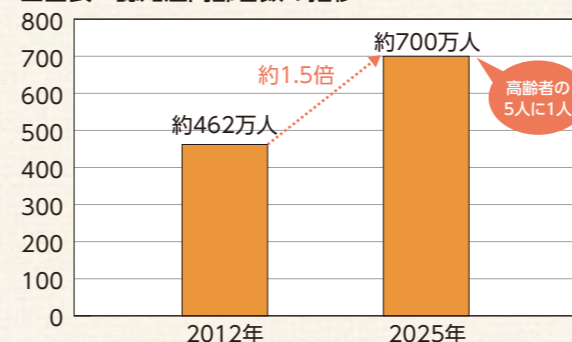
近年、認知症の高齢者が増え続けている状況(図表2参照)を受け、平成27年1月に厚生労働省と関係各省が共同で認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)〜認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて

■図表1 「加齢」と「認知症」による物忘れの違い(例)

	加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
体験したこと	一部を忘れる 例)朝食のメニュー	全てを忘れている 例)朝食を食べたこと自体
物忘れの自覚	ある	ない
探し物に対して	自分で努力して 見つけようとする	「誰かが盗った」など、 他人のせいにする可能性がある
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	極めて徐々にしか 進行しない	進行する

出典:政府広報オンラインより

■図表2 認知症高齢者数の推移



※新オレンジプラン記載の推計値を基に本会で作成
※2025年の推計値は有病率の変化により前後する

支え合い活動の 事例から

「を策定した。同プランでは「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続ける社会の実現を目指す」ことを基本的な考えとしている。認知症になっても誰もが安心して暮らせる地域づくりを社会全体で進めることが掲げられている(図表3参照)。

認知症になっても安心して暮らせる地域の実現は、公的施策を充

■図表3 認知症施策推進総合戦略の7本の柱

- ①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③若年性認知症施策の強化
- ④認知症の人の介護者への支援
- ⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦認知症の人やその家族の視点の重視

実させるだけでは十分でない。地域づくりの原動力となるのは、当事者の生活課題を自分たちの課題として受け止めようとする住民同士の支え合い活動である。その基盤があつてこそ、公的施策等の社会資源が地域に合った形で生かされ、認知症の人とその家族を含めて誰もが住みやすい地域づくりを進めることができる。そのために私たち自身ができることは何か。県内の事例から考えたい。

事例1

ネットワークで命を守る！
〜川西市徘徊SOSネットワーク〜

川西市では、市全体をカバーする徘徊SOSネットワークが構築されており、市内の警察署をはじめ、行政、地域包括支援センターや社協等の福祉関係機関、公共交通機関、乳酸飲料宅配業者やガソリンスタンド等の事業者などで構成されている。また、14の小学校区ごとに住民による同様のネットワークが構築されており、民生委員や福祉委員、認知症サポーターなどが活動している。

この2つのネットワークの基本的な仕組みは、認知症の高齢者が行方不明になった場合に、家族が警察署に届け出をすれば、警察署がその情報を市全域のネットワークの構成メンバーに連絡する。これを受けた地域包括支援センターから、さらに各校区の福祉委員等にメールやファクスで連絡される。そして連絡を受けた福祉委員や関係機



模擬訓練で「認知症高齢者役」の参加者に声を掛けようとしている参加者

関の従業員等からの「さっきバス停で見たよ」などの目撃情報を基に、警察官が現地に駆け付けて発見につなげるというものだ。

行方不明者の発見をより確実にしていくには、ネットワークによる「網の目」をできるだけ細かなものにしていくことが重要だ。川西市では認知症サポーターとして活躍している住民が既に1万人を超えているが、ある校区のネットワーク代表を務め、日々奔走している本間さんは、「一般の人への周知がもっと必要」と語る。市内の金融機関や小学校においても、認知症を正しく理解するための講座が開催されたり、大型ショッピングセンターも参加した実践的な模擬訓練が開催された

りするなど、ネットワークの機能を高める取り組みが続けられている。

これらの取り組みを中心に進めてきた市中央地域包括支援センター主任ケアマネジャーの森上さんは、「目をみはる成果は、すぐに出ないかもしれない。それでも各校区での日頃の見守り活動や模擬訓練、講座等の学びの機会を通じて、認知症への理解が深まれば、『何かおかしい』と気付き行動する人が増える。認知症の方も安心して暮らせる街にするための種を確実にまくことができている」と語る。

キーワード

認知症サポーター…認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を応援し、誰もが暮らしやすい地域をつくるべくボランティア。所定の講座を受講するとオレンジリングが授けられる。

事例2

暮らしの目線で気付きを築く
〜認知症地域支え合いグループ
みどりほっとクラブ(三木市)〜

「認知症地域支え合いグループみどりほっとクラブ」は、認知症の



当事者・家族を支えるために、地域住民が中心となり立ち上げたグループである。同クラブが活動する三木市緑が丘町は、約40年前に開発された住宅地で高齢化率が38%と市内で最も高く、住民が日常的に認知症や介護に対する不安を抱えていた。そのような背景を踏まえ、まちづくり協議会や市社協などが協力して若年性認知症*をテーマに住民学習会を開催したのが発足のきっかけだ。

同クラブでは、認知症の人・家族等と話し合い、以下の3つの柱を決めて活動に取り組んでいる。

①居場所づくりの活動では、平成27年4月から毎月1回の「認知症サロン」グリーンカフェを実施し、認知症の人が本人らしく過ごすとともに、介護する家族が不安や悩みを安心して話すことができる場づくりを進めている。②見守りの仕組みづくりでは、「外出時に認知症の妻のトイレ介助で困っているのでは誰かが少しでも手助けしてもらえれば」という家族介護者の声を基に



ある日の学習会の様子。同じ立場で考え合うことでより理解が深まる

キーワード
前頭側頭型認知症：認知症を引き起こす主な病気の1つ。同じことを繰り返し行う「常同行動」や言語障害が見られたり、社会性を失い「わが道を行く」行動をとったりするなどの特徴がある。

持ちや伝わる言葉がある。たんぼぼでは初めて参加してもみんなが本音で話すので、涙ながらに思いを語ることができた。
「たんぼぼは、地に深く根を張り、綿毛でその種を広げていく強い花。私も自分を見つめ直すことができ、明るくなったと言われます」と話す会員。地域に「たんぼぼ」のような場があることで、家族も自分自身も大切にするとつなげていく。

外出時の付き添い支援を試行的に始めている。③正しい理解を広げる活動では、認知症サポーター養成講座を開催し、「ゴミ出しや買い物等の日常生活を例に認知症の症状や関わり方のポイント」を学び、理解の輪を広げている。

クラブの役員には家族を介護中のメンバーもいるため、「安心して役員会に出席できるよう、奥さんが通うデイサービス先の一角で開催できるように頼んでみては」と提案の声が挙がることも。日頃の活動の中で認知症の人や家族の視点に立った思いやりが育まれ、その積み重ねが認知症の人と家族を支える地域の土壌づくりにつながっている。



グリーンカフェでは認知症の人もほっとする時間を過ごす

認知症の人と家族を地域で支え合うためのポイント

3つの事例から見えた、認知症の人とその家族を地域で支えていく上でのポイントは次の5点だ。

- ①認知症を正しく理解する
認知症の人について「何も判断できない」と考えたり、「介護は家族の責任」と家族に負担を押し付けたりするなど、誤解や偏見は根強い。誰にも悩みを打ち明けられず、行き場の無い不安を抱えて暮らす認知症の人たちを、必要な情報・資源につなげるためにも、正しい理解に基づく対等な関係を築くことが第一歩となる。
- ②当事者の声を聴く
認知症の人と家族の困り事や必要とする支援を当事者目線で理解するためには、当事者と出会い、対話することが重要だ。認知症サポーター養成講座やふれあいサロンなどで、当事者の声や体験談を聴くことで、悩みや不安を身近に感じることができ、より理解を深めることができる。

キーワード
若年性認知症：認知症は働き盛り世代など若くても発症することがあり、65歳未満で発症した場合このように呼ばれる。
※県内の若年性認知症の家族会等は、兵庫県社協のホームページで掲載しています。【ひょうご若年性認知症】検索

「たんぼぼ」は、「加古川認知症の人と家族、サポーターの会」二元気会を母体とした、若年性認知症の夫を介護する妻を中心とする家族会だ。月に1度、畳敷きの部屋で足を伸ばしながら、泣いて、笑って、介護の愚痴や工夫などの話に花を咲かせている。

「この間、介護しながら主人にきつい言い方をしてしまつて……」と悔やむ方に、「私もあるよ。自分の気持ち収まらないと相手にも冷静になられへんよ」と声が掛かる。また、「認知症の夫の通勤に付き添う、2人だけの時間が小さな幸せ」との言葉に夫婦の絆を再確認する

- ③気付きや学びを具体的活動へ
認知症サポーター養成講座をはじめ、各地で認知症について学ぶ講座や研修会が開催されているが、残念ながらその場限りの学びに終わるケースもみられる。学びを生かすためには、学びの場を企画する際に、地域に住む当事者を支える活動までを具体的に組み込んでおくことが大切だ。
- ④安心して集える身近な拠点を
閉じこもりがちな認知症の人や、介護に明け暮れる家族が、気兼ねなく悩みごとを共有でき、いきいきと過ごせる地域の拠点が重要だ。悩みを共有し合う認知症の本人・家族会や、気軽に立ち寄れるサロン、新オレンジプランでも掲げられた認知症カフェなど、その地域にあった形の拠点づくりが求められる。

⑤見守りの仕組みづくり
認知症の人やその家族が安心して生活していくためには、何かあった時に課題をキャッチし、対応できる見守りの仕組みが欠かせない。住民による見守り活動には、外出支援や行方不明時の連絡協力のほか、サロン活動や福祉マップの作成

ことも。介護の仕方は人それぞれ異なるが、気持ちは同じと感じ合える雰囲気がある。ある会員は、57歳で前頭側頭型認知症*を発症した夫を介護して10年になる。当時は病気のことをインターネットで調べても数行の説明しか行き当たらず、情報が無いまま悩んだという。実父の入院や孫の誕生も重なり、調べものをする余裕もない日々が続く中で4年が経った頃に「二元気会」に参加。そこで出会った若年性認知症の夫を介護する妻同士で、ランチ会を始めたのが「たんぼぼ」のきっかけとなった。2年前からは定例化し、「二元気会」の若年性部会として、成年後見制度などの学習会も交えて開催している。

「自分が知らなくて困ったから、初めて参加した人には、まず使える制度やサービスのことを伝えたい。診断の時点でそこまで情報提供してくれる病院は多くないし、使った人からだと、生きた情報になる」との言葉に表れているように、経験者だからこそ分り合える気

誰もが安心して暮らせる地域づくりに向け

認知症の人や家族が抱える悩みや生きづらさは、誰もが直面する可能性があり、社会全体で支える課題である。認知症の人と家族を地域で支えるためには、地域住民が当事者の目線で「どのようない地域であってほしいか」を話し合い、実践するプロセスが欠かせない。福祉専門職や行政にはこれらの取り組みが根付くよう支える姿勢が求められる。

このような視点で進める認知症の人が暮らしやすい地域づくりは、誰もが暮らしやすい地域へつながっていくだろう。

特別養護老人ホームかるべの郷さざんかでは、兵庫県から「地域サポート型特養」として認定を受け、地域の高齢者の安否確認や訪問支援を行っているんだ。また、大規模商業施設「やぶYタウン」の敷地内に居宅介護支援事業所を開設して、福祉の相談だけでなく誰でも利用できるよう建物を開放しているよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

木のぬくもりと香りを感じる
[KARUBE-TREE]に
フリースペース
誰でも気軽に立ち寄れる

かるべの郷では、介護保険事業のほか障害者の就労支援事業や地域の高齢者の相談支援事業に取り組み、「地域サポート型特養」として認定を受けている。事業を始めたきっかけは、かるべの郷に面会に来た家族や地域の人から「介護保険サービスを使うほどではないけれど……冬の間、一人暮らしの親が引きこもってしまつて。どこか行くところがあればなあ……」といった、行政に相談するほどではない相談事が多いことに気付いたからだ。要介護認定を受けていない人の場合、気軽に相談できる相手がないことが多い。介護や福祉全般の相談が気軽にできる場所づくりは、地域に密着した福祉施設が適任だと感じ、地域住民が立ち寄りやすい相談窓口を開設した。

相談を待つだけでなく、地域の人の声を聴きたい
かるべの郷では、介護保険事業のほか障害者の就労支援事業や地域の高齢者の相談支援事業に取り組み、「地域サポート型特養」として認定を受けている。

人が集まる場所に、 介護・福祉の相談窓口を

～特別養護老人ホームかるべの郷さざんか～



「TREE×TREEの名前のように、ささいなことでも相談できるとまわり木のような場所に育ていきたい」と話す藤森施設長

フリースペースがあり、買い物客が買い物のついでに立ち寄りたり休憩ができるよう無料で開放している。藤森施設長は「この場所が地域の皆さまから親しんでもらえる場になり、介護や福祉の問題を身近に感じてもらいたい。地域の方の生の声を聞いて、新しいサービスもつくってきたい」と語る。



国道9号線に隣接したスーパーやホームセンターの集まる大規模商業施設「やぶYタウン」内に開設。館内は木のぬくもりが感じられる。

取材を終えて

今回の取材では、福祉施設が地域の社会資源の一つとしてその機能を生かし、住民と交流し関係性を築いていくことの大切さに気付きました。地域をサポートすることが、同時に地域にサポートされる関係づくりにつながることを実感しました。

特別養護老人ホームかるべの郷さざんか
養父市十二所871番地
TEL 079-664-1875

年齢の方がふらつと立ち寄ってケアマネジャーと話をされたりすることもある。先日は、フリースペースによく訪れる中学生が、「トライやるウイーク」にかかるべの郷を選択してくれるなど、幅広い世代が福祉に興味を持つきっかけとなっている。藤森施設長は、「24時間対応できる特養という施設の機能を生かすだけでなく、かるべの郷のケアマネジャーなどの福祉人材を地域の宝として生かしていきたい」と、困ったときに何とかしてくれる福祉施設としての抱負を語っていただいた。



「ストップ・ザ・無縁社会」
広がれ！全県キャンペーン
<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

全県キャンペーンの幹事会を開催しました！

6月22日、各幹事団体より12名のご出席をいただき、全県キャンペーン推進協議会の幹事会を県福祉センターで開催しました。

冒頭のあいさつでは、代表幹事で兵庫県社協会長の武田政義より、「開始より4年が経過し、『無縁社会』の言葉も多くの場で語られるようになった。医療・介護分野で「地域移行」が進められているが、家族の力や地域の支え合いは依然として脆弱化している。キャンペーンの今後の展開についても、今年度は並行して議論し

ていきたい」と、キャンペーンの最終年度を迎えるにあたっての抱負が語られました。

続けて、平成26年度の事業報告・決算と、平成27年度の事業計画・予算についての協議を行い、各幹事団体よりキャンペーンの推進に対するそれぞれの立場や活動を踏まえた意見が出されました。

出席者より出された主な意見

- 配食は高齢者の見守りにつながるが、地域によっては外から弁当を取る習慣が無く、利用が少ない所もある。
- 今は縁側で語り合うことも少なくなり、空き家も増加した。地域を挙げて対応する必要がある。
- 生活困窮者自立支援制度などが開始され、キャンペーンの次のステップを考えるタイミングだと思う。
- 企業の経営者や施設関係者などが集まるこの場で色々な話を聞くのは参考になる。総会なども、地域活性化の方法を聞ける場になれば良い。
- 退職者だけでなく、現役世代の地域への関わりも考えていくべき時期にきている。



各フォーラムの参加者は延べ3万人超！

上記の幹事会では、キャンペーンの今後の展開を議論するにあたり、地域フォーラムの開催など、これまでの活動状況が報告されました。平成27年度も、より多くの市町でのフォーラム開催を支援いたします。実施予定の市町が決まりましたら、本紙面で改めてご案内させていただきます！

3年間のこれまでの主な取り組み

- 全県フォーラム(記念講演会、社会福祉夏季大学等)の開催
…延べ1万108人が参加
- 地域フォーラム・推進フォーラムの開催
…延べ45カ所で開催、2万743人が参加



記念講演会(左)と地域フォーラム(右)の様子

推進団体の参画について

このたび、新たに下記の団体より参画の申し出をいただき、推進団体は227団体となりました(6月26日現在)。全県キャンペーンでは、300団体を目標に、引き続き推進団体を募集しています。参画のお申し出は、事務局(兵庫県社協、TEL 078-242-4633)までご一報ください！

新たに参画した団体(順不同)

- 社会福祉法人愛児会、社会福祉法人あいむ、社会福祉法人神戸婦人同協会、社会福祉法人恵泉寮 清心ホーム、社会福祉法人権の木会、社会福祉法人泉心学園、社会福祉法人同朋福祉会、社会福祉法人姫路乳児院 ピューパホール、社会福祉法人みつみ福祉会、社会福祉法人夢工房、社会福祉法人立正学園、社会福祉法人緑水会、児童養護施設子供の家、株式会社イディー、リコージャパン株式会社 兵庫支社

いきいきアクティブライフ

シニア世代が地域住民の一員としてアクティブに活動しているグループなどの事例を紹介します。



肩肘張らず、求められることに丁寧に対応しながら活動を!

出会いから生まれる結束

「充実したシニアライフを楽しみませんか!」シニア世代の仲間づくりと新たな活動のきっかけづくりを目的に宍粟市社協が呼び掛けたセカンドライフ応援セミナー。「ちょっと暇つぶしに」「定年退職したし、何かやろうかな」など、さまざまな動機で市内各地のシニアメンバーが参加した。「魚のさばき方」や「コミュニケーション麻雀」といったメンバーの関心が高い内容が用意され、受講することに絆が深まった。セミナー終了後の食事会で、メンバーから「この仲間が何かしないともったいない!」と声が上がリ、平成25年に男女8人の有志による「ぶるーべりい会」が発足した。

手探りで少しずつ活動を広げる

まずは何から始めるか悩んでいた中、市内の障害者支援施設「はりま自立の家」から、「入居者が行う紙すきやクッキングをボランティアの方に手伝ってほしい」と社協に相談が入ったことから、社協よりメンバーに提案したところ、「とにかくやってみよう」と手探りで活動がス



例会は和気あいあいと

スタートした。「ぶるーべりい会」では、毎月1回欠かさず例会を実施している。メンバーの活動に対する不安や思いを共有しながら、自分たちの活動を振り返り、活動の見直しや新しいことへの取り組みを話し合う機会になっている。顔なじみになった施設の職員も例会に参加するようになり、入居者の様子を情報共有し、入居者のニーズに基づいた活動について話し合う中で、話し相手や外出の支援等、活動が少しずつ広がってきた。

無理なく、できることを継続する

「入居者の喜ぶ声や顔を見るとたまらなくうれしい」というメンバー。例会に参加している施設職員も「入居者は、メンバーの何気ない世間話を楽しみにしている。会話に加わらない入居者も和やかな雰囲気を楽しんでいる」と話す。普段の活動や例会でのやりとりから、信頼関係が築かれていることがうかがえる。

代表の中村さんは、「『ボランティア』だからと肩肘を張らず、無理なくできることを継続することが大事」と語る。自分たちの活動を待っている人たちのために、活動を展開している「ぶるーべりい会」を、今後も応援したい。



入居者それぞれのできることに応じた手伝いを

団体の概要

「ぶるーべりい会」
宍粟市一宮町関賀300(宍粟市社会福祉協議会本部内)
TEL 0790-72-8787

取材を終えて

「自分たちの活動を押し付けず、必要とされていることに柔軟に対応する」というスタンスで、相手が求めている部分にするりと入り込めるのは、さまざまな経験を積んだ方たちだからこそ可能なのではないかと感じました。

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける!
ワーカー物語

「地域に何かあれば頼っていただけける
ワーカーになりたい!」

心に残るエピソードは?

社協に入ってから担当している日常生活自立支援事業で、ある認知症の方から相談を受けました。その方は話し手がなく、1人で問題を抱えていました。相談を重ねながらじっくり伺うことで少しずつ心を開いてくださり、訪問にも応じ日々の悩み等を打ち明けてくださるようになりました。その後、認知症が進みさらなる支援の必要性が生じたことから、民生委員や福祉委員の方々と共に「見守り」や「身近な居場所づくり」について話し合う場を設けました。

また、住民の皆さんが地域全体でその方を見守ろうという動きがあり、ご本人に清掃活動等の地域活動に参加してもらい、そこを住民同士の交流の場にする中で、ご本人の居場所づくりにつながりました。このような地域のつながりによる

支援を今後も大切にするため、住民を支えていく社協のアプローチが必要であると考えています。

力を入れたい活動は?

今年度、川西市社協では、新たに「総合相談・権利擁護支援チーム」を設置しました。個々の課題に対し、社協職員全員で考えられる場にし、他部署との連携を強化し社協組織内の横断的な支援体制づくりを行うものです。また、関係機関や住民の方と連携し、「助けて」を見逃さない支援体制づくりを目指しています。

大切にしていることは?

私自身も社協の職員として、住民の皆さんの個々の課題や地域社会の困り事を掘り起こし、根本的な課題の解決に取り組んでいきたいです。前の職場でヘルパーの仕事をしな

から、地域住民のつながりの必要性を感じていた頃、社協が進めるふれあいサロン等の地域づくり活動を知り、住民の方々と共に進められる社協活動に携わりたいと考えたのがワーカーとしての原点です。これまで仕事を行う中で、職場や多くの住民の方々に支えてもらいました。今度は自分が周囲の人の支えとなり、支え合いの中で感謝の気持ちと尊敬の念を持ちながら、幅広い支援を行っていききたいです。



地域の課題解決に向けて
「市民後見人養成研修」の様子

取材を終えて

「住民の方々が自分と会うことで笑顔になっていただきたい」と話す森さん。日々の仕事を通じて、社協と地域住民の方々が互いに支え合える地域社会を目指している姿が印象的でした。

川西市社会福祉協議会

森 真美さん

Personal History

- 30歳 医療法人の事業所でヘルパー業務
- 36歳 川西市社協に入局
日常生活自立支援事業、
配食サービス配属
- 41歳 川西市成年後見支援センター
“かけはし”担当



平成26年度県社協の
事業・決算報告

5月27日、本会の第238回理事
会・第184回評議員会が開催さ
れ、事業報告と決算が承認された。
その概要は次の通り。

「ストップ・ザ・無縁社会」
全県キャンペーンの展開

キャンペーンの全県普及のため、
「地域フォーラム」の開催支援を県内
17市町に対して行うとともに、新た
に幹事団体による「推進フォーラム」
の開催を支援するなど、支え合い社
会の実現に向けた各種の取り組みを
展開した。

県社協アクションプランに
基づいた取り組み

Action 1 市町域での地域福祉の
推進力を高める支援

社協ワーカー実践研究会や社協中
間マネジャー実践セミナーの開催
を通じて市町社協の組織基盤強化の
支援を行った。また、生活困窮者自立
支援法の施行や介護保険制度改正を
踏まえ、社協の生活支援方策について
の協議検討を進めた。

人口減少時代の地域の
在り方を議論！
社会福祉夏季大学の開催

少子高齢化の進展等により、「人
口減少」が大きな社会問題として注
目され、私たちの生活を支えるコ
ミュニティの存続も危惧されている。
国や自治体でも、「地方(地域)創生」
が掲げられ、活力ある地域社会づく
りに向けた施策が、急速に展開され
つつある。

第54回目となる社会福祉夏季大

第54回社会福祉夏季大学

- 日時 平成27年8月27日(木)13:00~16:35
- 会場 神戸芸術センター 芸術劇場
(神戸市中央区熊内橋通7丁目1-13)
- 参加対象 地域福祉に関心のある人(定員600人)
- 聴講料 一人3,000円

時間	内容
13:00	開会
13:20~14:20	基調講演 「人口減少社会と地域社会の未来 ~“無縁社会”の克服 に向けて~」



講師: 藻谷 浩介氏
(株式会社日本総合研究
所 所長)

撮影: 菅田(わいた)純一氏

- 14:30~16:30 パネルディスカッション
「これからの福祉社会づくりの方向性」
- 16:35 閉会

問い合わせ先 兵庫県社会福祉協議会 総務企画部
TEL 078-242-4636
<http://www.hyogo-wel.or.jp/>

学では、このような情勢を踏まえな
がら、人口減少の時代における福祉
社会づくりの方向性を共有する機
会として開催する。
基調講演では、ベストセラー『里山
資本主義』などの著者である藻谷浩
介氏(写真)に、地域社会の将来像や
無縁社会の克服に向けた展望など
を講演いただく予定です。
開催要綱等は、本会ホームページ
に掲載しますので、多くの方のご
参加をお待ちしています。

Action 2 多様な主体が
つながり、
資源が循環する仕組みづくり

県民ボランティア活動の取り組み
を評価し、今後の活動支援に向けた
基礎資料とするための実態調査を
実施するとともに、災害ボランティア
割引制度の実現に向けた署名活動
を展開した。

Action 3 質の高い福祉サービスの
充実・開発

就職総合フェアや福祉人材確保・
定着力向上研修を実施するととも
に、職場研修プレセミナーなどを新

一般会計資金収支計算書

区分	収支	一般会計	資金収支内訳表			
			社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
事業活動による収支	収入 支出	1,156,589 1,218,216	368,664 365,474	790,877 865,287	17,547 7,954	-20,499 -20,499
事業活動資金収支差額		△ 61,626	3,189	△ 74,409	9,593	0
施設整備等による収支	収入 支出	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
施設整備等資金収支差額		0	0	0	0	0
その他の活動による収支	収入 支出	4,533,897 4,439,659	532,391 470,055	4,078,492 4,036,997	0 9,593	-76,986 -76,986
その他の活動資金収支差額		94,237	62,335	41,494	△ 9,593	0
当期資金収支差額合計		32,610	65,525	△ 32,914	0	0

生活福祉資金会計資金収支計算書

区分	収支	生活福祉 資金会計	生活福祉資金 (災害)会計	生活復旧 資金会計	要保護世帯向け 不動産担保型 生活資金会計	生活福祉 資金貸付 事務費会計	臨時特例 つなぎ 資金会計
事業活動資金収支差額		60,709	13,205	54	△ 40,467	9,955	△ 27,122
施設整備等による収支	収入 支出	0 0	0 0	0 0	0 0	0 8,445	0 0
施設整備等資金収支差額		0	0	0	0	△ 8,445	0
その他の活動による収支	収入 支出	5,017,198 5,137,930	0 17,995	0 91	106,888 120	870 2,379	0 442
その他の活動資金収支差額		△ 120,731	△ 17,995	△ 91	106,767	△ 1,509	△ 442
当期資金収支差額合計		△ 60,022	△ 4,790	△ 36	66,300	0	△ 27,565

Action 4 暮らしのセーフティネット、
の充実・強化

福祉サービス利用援助事業の実
施や市民後見推進研修の開催を通
じて権利擁護・生活支援の取り組み

たに実施し、福祉人材の確保・育成
に向けた取り組みを進めた。また、
社会福祉法人連絡協議会の立ち上
げ支援を行い、社会福祉法人が進め
る地域公益活動についての調査・研
究等を行った。

阪神・淡路大震災から20年の節目
にあたり、災害ボランティアセンター
やボランティア活動に関するフォー
ラムを開催した。また、8月に丹波市
を中心に発生した大雨災害への支援
活動に取り組んだ。
※事業・決算報告は本会ホームページで
も掲載している。

「人材育成・定着のための基礎講座
(職場研修プレセミナー)」受講者募集!

「職場研修をどのように進めていけばいいのかわからない」と悩む社会福祉施設・事業所等の施設長や管理者を対象としたセミナーを開催します。ご都合の良い日程・会場にご参加ください(要申し込み)。
開催期日 神戸会場 平成27年7月29日(水)13:00~16:45
播磨会場 平成27年8月19日(水)13:00~16:45
阪神北会場 平成27年9月11日(金)13:00~16:45
講師 一般財団法人OAA 専務理事 清水 勲夫氏
定員 各会場30人(先着順) 参加費 無料
問い合わせ先 兵庫県社会福祉研修所 TEL 078-367-3001
http://www.hyogo-f-kensyu.jp/ichiran/index_05.html

リフレッシュ旅行補助を実施します!!



互助会マスコットキャラクター
ハーミン

民間社会福祉事業職員互助会では、県内の社会福祉施設等の従事者の福利厚生を充実させるため、各種事業を実施しており、その一環として従来から「旅行補助金」(会員1人当たり年1回3,000円)を実施してきましたが、平成27年6月から兵庫県からの補助を受けて、新たに「リフレッシュ旅行補助」を実施するこ

とになりました。この「リフレッシュ旅行補助」は、互助会の「指定割引施設(県内の宿泊施設18カ所)」を利用した場合、会員1人当たり5,000円(1年度につき1回の申請)の補助を行うものです。(対象期間:平成27年6月1日~2月末日)

対象となる宿泊施設

ウェスティンホテル淡路(淡路市)、神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ(神戸市)、神戸ポートピアホテル(神戸市)、シーサイドホテル舞子ビラ神戸(神戸市)、天然ラジウム温泉太山寺なでこの湯(神戸市)、姫路キャッスルグランヴィリオホテル(姫路市)、峰山高原ホテル リラクシア(神河町)、オーベルジュアルピレオ(豊岡市)、ブルーリッジホテル(豊岡市)、魚ヶ滝荘(朝来市)、浜坂温泉保養荘(新温泉町)、王地山公園ささやま荘(篠山市)、ホテルニューアワジ(洲本市)、ひょうご憩の宿グループ<新たんば荘(篠山市)、津名ハイツ(淡路市)、赤穂ハイツ(赤穂市)、いこいの村はりま(加西市)、六甲保養荘(西宮市)>



ウェスティンホテル淡路

問い合わせ先 兵庫県社会福祉協議会福祉事業部 TEL 078-242-4635
※民間社会福祉事業職員互助会への新規加入もお待ちしております!

兵庫県社協 互助会 検索

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

一般財団法人長谷川福祉会
平成27年度助成事業

障害者を対象とした①施設の建設、修理、改造および備品の購入、②団体・ボランティアグループ等が行う社会福祉活動に助成します。

対象 障害者を対象とした施設・団体で、総購入資金・事業費の15%以上の自己資金が用意できることなどの条件を満たすこと

助成額 ①施設の建設、修理、改造：1件上限200万円、備品の購入：1件上限50万円
 ②1件上限50万円

締切り 平成27年7月25日(土)

☎☎①兵庫県協福社事業部 TEL 078-242-4635
 ②兵庫県協地福祉部 TEL 078-242-4634

URL <http://www.hasegawafukushikai.jp/>

Panasonic NPOサポートファンド

NPO/NGOが持続的に発展できるよう、組織基盤の強化を応援します。①環境分野②子ども分野の2つの分野で募集します。

対象団体 ①②共に、次の条件を満たすこと。
 ④団体設立から3年以上であること⑤有給常勤スタッフが1名以上であること など

対象事業 最長3年まで応援。次の④と⑤の連続した取り組み、または④、⑤のみの取り組みでの応募が可能。④組織診断フェーズ(組織診断の実施と組織課題の抽出、組織基盤強化計画の策定)⑤組織基盤強化フェーズ(組織基盤強化計画の具体化、実行、評価)

助成額 1団体上限200万円

締切り 平成27年7月31日(金)必着

☎☎①特定非営利活動法人地球と未来の環境基金 TEL 03-5298-6644②特定非営利活動法人市民社会創造ファンド TEL 03-5623-5055

URL <http://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf.html>

社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

対象 児童養護施設や里親家庭で生活し、2016年4月に4年制大学、短期大学、専門学校への進学を希望している高校3年生等

助成額 1件上限100万円(30件程度)

締切り 平成27年8月21日(金)消印有効

☎☎社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 TEL 03-5540-7446

URL <http://www.asahi-welfare.or.jp/>

公益財団法人木口福祉財団
平成27年度被災地復興助成

東日本大震災で被災された障害者の支援活動に助成します。

対象団体 福祉活動やボランティア活動に取り組む団体・グループ(法人格の有無は不問)

対象事業 ①活動助成(東日本大震災で被災された障害者の生活復興支援を目的とするボランティア・市民活動)②施設整備助成(岩手県・宮城県・福島県の被災地域に拠点を置く障害者支援団体が事業に必要な建物を新築または改修する工事)

助成額 ①1件上限50万円②1件上限300万円(総額1,200万円)

締切り 平成27年8月27日(木)

☎☎公益財団法人木口福祉財団 TEL 0797-21-5150

URL <http://www.kiguchi.or.jp/>

募集

こころのアート展inしあわせの村2015

障害のある人たちの創作活動を支援するため、公募で選考された作品を展示します。

対象 兵庫県に在住、在学、在勤または通所している障害のある人で、展示可能作品が10点以上ある人※自薦、他薦は問わない

作品規定 平面作品および立体作品

締切り 平成27年7月31日(金)消印有効

☎☎公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 TEL 078-743-8092

URL <http://www.shiawasenomura.org/>

第50回NHK障害福祉賞

体験記録を募集します。

募集部門 第1部門：障害のあるご本人の部門、第2部門：障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募規定 8,000文字以内

賞 最優秀：賞金50万円ほか

締切り 平成27年7月31日(金)消印有効

☎☎NHK厚生文化事業団 TEL 03-3476-5955

URL <http://www.npwo.or.jp/>

研修・イベント

第9回福祉教育研究フォーラム

日時 平成27年7月20日(月・祝)10:15~16:50

会場 日本福祉大学名古屋キャンパス

参加費 一般2,000円、大学院生1,000円、学部生無料

☎☎日本福祉大学 TEL 052-242-3045

URL <http://www.n-fukushi.ac.jp/>

行事予定

7月 1-10日 社会福祉援助基礎研修Aコース(全2コース)◆県社会福祉研修所

2-13日 コミュニティワーク基礎研修◆県社会福祉研修所

8日 第1回権利擁護部会◆県福祉センター
 第1回福祉事業推進部会◆県福祉センター

10日 第1回地域福祉推進部会◆県福祉センター
 第1回市町村協活動推進協議会幹事会◆県福祉センター

14日~ 介護支援専門員更新研修B・再研修◆県社会福祉研修所他

15日 会計実務担当者研修 基礎編◆県社会福祉研修所

16~17日 近畿老人福祉施設研究協議会◆ポートピアホテル

相談面接技術研修 初級Aコース(全2コース)◆県社会福祉研修所

17日 医療扶助・介護扶助事務担当者研修◆県社会福祉研修所

22日-8月5日 相談面接技術研修 中級Aコース(全3コース)◆関西学院大学

24日 経営協理部会・例会◆県福祉センター

25日 第1回福祉の就職総合フェア in HYOGO◆神戸国際展示場3号館

27日~ 保育リーダーゼミナール(全4回)◆県社会福祉研修所

28日 県地域包括・在宅介護支援センター協議会 新任職員研修会◆県福祉センター

29日 前頭側頭型認知症の家族交流会◆県福祉センター

職場研修プレセミナー(神戸会場)◆県社会福祉研修所

30日 新任職員OJT担当者研修 基礎編◆県中央労働センター

8月4日-5日 全国社会福祉法人経営青年会コーチングトレーニング講座◆県福祉センター

17日 生活保護査察指導員研修◆県社会福祉研修所

19日 職場研修プレセミナー(播磨会場)◆加古川市総合福祉会館

26日 青年協定例研修会◆県福祉センター

27日 第54回社会福祉夏季大学◆神戸芸術センター

27日~ 老人福祉施設リーダーゼミナール(全4回)◆県社会福祉研修所

新たんば荘
 四季折々の「丹波」の味覚を楽しむ、城下町「篠山」を散策
 篠山市郡家451-4 079-552-3111

津名ハイツ
 豊かな海の幸を使った料理が自慢。夏は鮭料理、冬は3年トラフグを満喫
 淡路市志筑162 0799-62-1561

赤穂ハイツ
 瀬戸内海に臨む眺望は「素晴らしい」の一言。名物「鯛ソーメンは絶品」
 赤穂市尾崎向山 2470-64 0791-48-8935

いこいの村はりま
 エメラルドグリーンの芝生が広がる敷地。森林浴などいかがですか
 加西市笹倉町823-1 0790-44-1750

ひょうご憩の宿グループ
 互助会指定割引施設
 ◎四季プラン 9,800円(税込)
 ◎シニアぷらん 8,000円(税込)
 各施設お得な宿泊プランを取り揃えています

六甲保養荘
 温泉に浸り、夜は阪神間の夜景を愛でながら四季の景観をお楽しみ下さい
 西宮市越水郷山1-95 0798-73-1351